

群馬県立沼田高等学校(全日制) 学校評価一覧表①

(令和4年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策			第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目				自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①文武両道を日々心がけて学校生活をすごしている生徒が70%以上である。	学校全体で文武両道の行動規範を推奨し、生徒が1日の中での文武両道を意識して、主体的に日々の学習と部活動に取り組むよう、機会あるごとに機運を高める。折に触れ、「五常の教え」について意識させ、学校行事などで更に浸透を図る。教職員自ら手本となり全員で挨拶の励行と清掃活動に取り組む。食育に関する「食と健康」や保健に関する「保健便り」などの広報誌を発行し食事の重要性について生徒に訴えたり、「料理講習会」などの食に関する生徒向け行事を行ったりする。生徒が日々の学習活動及び学校行事や部活動等に主体的に取り組める雰囲気醸成し、学校生活の中で楽しさや充実感を感じるような教育活動の場を設定する。			A 職92%	A 生80% 保80%	充実感のある学校生活となるよう、引き続き学習時間の確保と部活動の活性化を目指して継続的に指導していく。	A 職89%	A 生76% 保81%	多くの生徒が文武両道を実践しているが、日々の充実感を持っていない生徒もいる。継続的に指導していきたい。
		②「五常の教え」を理解し、挨拶や清掃を積極的に行っていると答える生徒が80%以上である。				A 職96%	A 生92% 保77%	日々の学校生活や特別活動の中で「五常の教え」が実践された好例などを、折に触れ生徒に紹介していく。	A 職96%	A 生92% 保76%	多くの生徒がしっかりと挨拶ができており、校内美化にも努めている。継続的に指導していきたい。
		③栄養バランスに配慮した規則正しい食生活を送っている生徒が90%以上である。				A 職100%	B 生88% 保85%	引き続き、食に関する広報紙「食と健康」や「保健便り」等で生徒の食に関する意識を高めていく。	A 職100%	B 生87% 保85%	引き続き、食に関する広報紙「食と健康」や「保健便り」等で生徒の食に関する意識を継続して高めていく。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④自分の学校が好きだと感じている生徒は、80%以上である。	職員が日頃の授業の様子や学びの基礎診断テストツールの結果などから、生徒の学習状況を把握し、個々の学習レベルに合わせ、生徒の疑問にわかりやすく答える。少人数・習熟度別授業のメリットを活かした授業内容や進度について、各教科で検討し、主体的で対話的な深い学びに繋がるよう授業改善に努める			A 職100%	A 生90% 保91%	コロナ禍の生活様式の中でも、生徒が主体的に日々の学校生活を過ごし、充実感のある毎日を過ごせるように支援する。	A 職96%	A 生88% 保91%	日々の集団生活における制約が残る中で、生徒の主体性を養う場面を大切にし、自己肯定感を高める教育活動を継続する。
		⑤学習上の疑問に教科担当者が丁寧に答えてくれると感じている生徒が80%以上である。				A 職96%	A 生93% 保78%	各種アンケートや基礎診断テストの結果を活かしながら、個々の生徒の学習状況を把握した上で、生徒の疑問に対応する。	A 職96%	A 生91% 保82%	授業内での観察や面談活動等で生徒の実態を把握しながら、引き続き生徒との信頼関係を大切にしながら指導に当たっていく。
	⑥少人数・習熟度別授業を肯定的に受けとめている生徒が80%以上である。	A 職92%	A 生91% 保76%	スタディサブリの課題配信等を利用した個別最適化した学習による学力の伸長を目指し、生徒の学びが停滞しないよう研鑽する。	A 職93%	A 生93% 保80%	少人数・習熟度別授業の中でよりきめ細かい指導ができています。来年度シラバスを作成する際に教材、指導方法等を検討する。				
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦授業で学習した内容の理解を深めるために、PDCAサイクルを意識して、家庭で学習に取り組んでいる生徒が70%以上である。	授業内容と運動した有効な家庭学習課題を授業計画に組み入れる。また、家庭学習でクロムブックを有効に活用し、学び直しが繋がるような学習課題を設定し、一人一人の絶対的な家庭での学習時間を増加させる。			C 職46%	B 生71% 保77%	生徒の認識と教職員の認識が大きくずれている実態を分析し、個別面談や各種アンケートを利用しながら、生徒の学習実態を把握し、適切に支援していく。	C 職63%	B 生79% 保72%	本年度第1回調査と比べると数値は上がっている。各学期に行っている学習時間調査などを啓発の場とし、学習計画を立てる習慣を身に付けさせたい。
		⑧学級担任による個人面談が効果的と答えている生徒が80%以上である。				A 職100%	A 生94% 保88%	二者面談週間や日頃からの各担任による二者面談が効果的に行われている。生徒のニーズに応じた指導ができています。	A 職96%	A 生94% 保89%	二者面談週間や年間を通しての学級担任による個人面談を実施しており、生徒一人一人に応じた指導ができています。
	⑨学年会議や分掌の会議での生徒に関する情報交換が生徒への細やかな対応に反映していると感じている職員が90%以上である。	A 職100%	B 生88% 保72%	学年会議や分掌会議で生徒の情報共有だけでなく、日頃から職員間のコミュニケーションを取り、生徒の些細な言動の変化も話題にするよう努めている。	A 職96%	B 生85% 保75%	学年会議や分掌会議で生徒の情報共有ができています。職員間のコミュニケーションを図り、生徒の些細な変化も見逃さないような組織づくりをさらに進めていく。				
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑩いじめを容認しない校風づくりと、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいると理解している生徒保護者が80%以上である。	本校のいじめ防止プログラムに取り組むとともに、校内職員研修の充実を図る。学期に1回以上、いじめアンケートを行い、いじめの早期発見と早期対応を図る。また5月・12月の強化月間には正門・生徒玄関にのぼり旗を立てて啓発を図るとともに保護者にも学校HPや一斉メールを通じて情報発信を行う。			A 職96%	B 生81% 保72%	本校いじめ防止プログラムに沿った取組を行っている。いじめ案件は組織的に早期発見・早期対応ができた。保護者への周知については、HPや一斉メールなどを活用し、学校での取組を紹介した。継続したい。	A 職100%	B 生81% 保79%	いじめ案件への対応については、早期に対応し、校内委員会によって組織的に対応できた。また、校内研修を行ったが、内容の充実を図りたい。12月の強化月間では、5月に引き続き、保護者への周知を行った。
		⑪欠席・遅刻をせず、挨拶がきちんと励行できている生徒が80%以上である。				A 職96%	A 生94% 保94%	ほぼすべての生徒が遅刻することなく登校できている。挨拶についてもほとんどの生徒が礼儀正しく、元氣よく行っている。	A 職96%	A 生90% 保91%	ほとんどの生徒が遅刻をすることなく登校しているが、欠席者が多かった。自己の心身の健康管理ができる生徒を育成していくとともに、不登校生徒の対応についてさらに研修を行っていきたい。
	⑫月に2回のカウンセラーによる教育相談に理解を示す生徒保護者が80%以上である。	A 職92%	B 生81% 保76%	「カウンセラーだより」を定期的に発行しているが、生徒・保護者への周知が課題である。HPやChromebook等を活用したい。	A 職96%	B 生81% 保79%	担任の働きかけや定期的なカウンセラー便りの効果もあり、例年より保護者のカウンセラー相談が増えた。今後も継続していく。				
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑬先生方が親身になって相談に応じてくれると感じている生徒が70%以上である。	あらゆる場面で教職員からの積極的な声かけや二者面談を行い、学習面だけでなく、学校生活や日常生活についても話題に触れるようにする。生徒の些細な変化や行動を見逃さないよう、日頃から生徒の状況把握に努め、情報共有を図る。			A 職100%	A 生91% 保67%	日頃からの教職員からの声かけや二者面談により、生徒が気軽に相談できる雰囲気作りができています。生徒とのコミュニケーションを積極的に進めていく。	A 職96%	A 生87% 保73%	二者面談期間だけでなく、日頃から担任による面談によって、生徒からの信頼を得られている。生徒の変化を見逃さないよう、職員間の情報共有も引き続き充実させたい。
		⑭進路に関する学校または学年単位の指導が効果的と感じている生徒が70%以上である。				A 職96%	A 生94% 保80%	感染予防対策の下、オンライン活用と対面を組み合わせる。情報収集と内容精選に努め、効果的な進路指導の在り方を研究していく。	A 職96%	A 生92% 保85%	感染防止に努めつつ概ね計画通りに実施できた。今年度の実施方法・課題を、より効果的な進路指導のために活かしていきたい。
	⑮「総合的な探究の時間」を通じ、研究テーマに関する興味関心が一層高まったと答える生徒が70%以上である。	A 職85%	B 生83% 保56%	本年度からデジタル教材の導入と学校HPに「総合探究」のページを作成し、発信を心掛けたが、課題として残った。今後は総合探究の様子を生徒主体で発信できるよう考えていきたい。	A 職89%	B 生85% 保65%	今年度はデジタル教材の導入をしたが、課題が残った。来年度は、従来のゼミ形式で進めていく流れを検討している。また、ゼミ活動の広報を来年度は今年度以上に取組んでいく必要がある。				
8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑯模擬試験を有効に活用し、進路選択に役立てている生徒が70%以上である。	進路指導年間計画に基づき、模擬試験を実施し、各学年で必要とされる基礎学力の定着と応用力の伸長を図る指針とする。さらに模試結果を活用した受験後の指導を充実させる。			B 職69%	B 生84% 保65%	感染防止対策の下、極力、計画に沿った模試実施を行い、模試分析の形式を見直し、教科指導・進路指導に積極的に活用していく。	A 職82%	A 生87% 保69%	生徒の実態に合わせた模擬試験の計画を立て実行できた。模試結果を教科指導・面談指導に活用することで模試受験を生徒の主体的な進路実現につなげていきたい。	
	⑰保護者対象の進路学習会を有意義だと感じている保護者が70%以上である。				A 職100%	A 生82% 保80%	外部講師による進路講演を軸にした1・2年の保護者向け進路学習会を10月中の平日の夕方にオンラインで実施する。	A 職100%	A 生80% 保80%	1・2年とも外部講師を招いたオンラインでの保護者向け進路学習会を実施した。今後も保護者が参加しやすく、有意義な情報提供ができるよう実施形態、実施内容を工夫していきたい。	

V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱PTA総会やPTA保護者会、公開授業等への参加率が70%以上である。	生徒を通じた配布物に加えて、オクレンジャーやクロムブックなどを十分に活用し、各行事の日程や内容等について分かりやすく保護者へ連絡し、参加を促す。	A 職96%	A 生89% 保82%	2学期に予定されている各学年保護者学習会、第2回公開授業を通知とオクレンジャーで確実に案内する。	A 職100%	A 生90% 保79%	1・2年保護者学習会をオンラインで、公開授業は3年生保護者のみを対象として実施した。コロナの状況に合わせて臨機応変に対応していく。
		⑲図書館、桔梗館の一般開放に満足している参加者(生徒保護者を含む)が70%以上である。	図書館・桔梗館一般開放の日程をホームページ上に掲載したり、広報を作成したりするなどして、地域社会の方々に周知を図る。	B 職92%	C 生89% 保59%	図書館・桔梗館の一般開放の日時をホームページ上に定期的に掲載し、周知を図る。	B 職93%	C 生87% 保60%	一般開放実施日を学校Webページや地域の回覧物に掲載し、地域社会の方々に周知していきたい。
		⑳Webページに掲載された情報やオクレンジャーの連絡が役に立っているとらえる生徒保護者が80%以上である。	各分掌、学年、部活動等から集めた情報や連絡を迅速に処理してWebページ上で発信する回数を増やす。オクレンジャーについては、掲載する内容や時期を精査して、必要な連絡を発信する。	A 職100%	A 生94% 保96%	引き続きWebページでは日々の教育活動の発信を中心に、オクレンジャーでは保護者へ通知する情報を確実に連絡する。	A 職100%	A 生95% 保97%	概ね良好な結果を得ている。引き続き、オクレンジャーと学校Webページを併用しながら適切に情報を発信していきたい。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉑ICT機器を活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	「Gunma Model Advanced」等を参考に先進的な授業の実践例を職員間で共有し合い、ICT機器活用のさらなる促進を図る。	A 職92%	A 生90% 保78%	職員同士の授業観察を行い、ICT機器を活用したより良い実践方法について意見交換を積極的に行っている。	A 職96%	A 生92% 保83%	Goggle Classroomが学校生活および授業における中心的なプラットフォームとして活用されている。来年度は、生徒の情報活用能力をさらに伸ばしていきたい。
		㉒ICT機器を使った授業が70%以上である。	Google Classroomやスタディサプリを中心的な学習プラットフォームとして活用し、各生徒の学習状況等を可視化することで、学習意欲の向上を図る。	A 職92%	A 生91% 保70%	教科によっては夏季休業中の課題をGoogle Classroomやスタディサプリ等で配信し、生徒の取り組み状況や学習の理解度を把握するように努めている。	A 職96%	A 生91% 保73%	オンライン上で、教師－生徒の相互交流が積極的に図られている。今後は、定期考査などの成績データをGoogle Classroom上に蓄積し、生徒自身が確認できるようなシステムを構築していきたい。
	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉓ICTを活用した通知に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	Google for Educationのサービスを活用し、保護者通知や各種アンケート等のペーパーレス化を進め、従来の回収作業等の業務の負担を軽減していく。	A 職96%	A 生94% 保82%	ほぼ全てのアンケート調査をGoogle Formsで実施したことで、集計業務等の効率化が図られている。今後、授業評価アンケートもグーグルフォームに移行していきたい。	A 職100%	A 生92% 保85%	保護者からの欠席連絡や緊急連絡をGoogle Formsやメール機能を利用して効率化を図った。来年度は授業評価アンケートなど未実施の業務に着手したい。